

中上級日本語学習者の読解における困難点： think-aloud法による事例研究

著者名(日)	和氣 圭子
雑誌名	言語科学研究：神田外語大学大学院紀要
巻	19
ページ	101-115
発行年	2013-03
URL	http://id.nii.ac.jp/1092/00000986/

中上級日本語学習者の読解における困難点 —think-aloud法による事例研究—

和氣 圭子

キーワード：日本語学習者、think-aloud法、読解の困難点、
読解ストラテジー

1. はじめに

母語以外の言語（L2）のクラスでは、読解教材として、学習者向けに書き下ろされたテキストと、母語話者向けの文章（authentic text）を修正したテキストの2種類が用いられている。後者の修正テキストについてはこれまでの研究で、修正の方法、修正が読み手の理解に与える影響などが欧米語を中心に検証されている（英語：Oh, 2001; Yano, Long, & Ross, 1994; スペイン語：O'donnell, 2009; Young, 1999, 等）。日本語を対象とした研究としては、近年、文章の難易度を客観的に判定するリーダビリティの研究が進んできたが（柴崎・玉岡, 2010）、学習者向けの指標はまだ示されておらず（川村, 2011）、学習者にとって難しい文章とはどのようなものか、語彙や構文等の要素がどの程度、難易度に影響するのかは明らかになっていない。複文や名詞修飾節は難しいだろうといった教師の経験や直感による判定で、教材の選択・開発、読解指導が行われているのが現状である。では、実際に学習者にとっては何が困難であるのか。本稿では、困難点を探ることを目的とした調査について報告する。本調査は、テキスト修正と読解プロセス、理解についての研究プロジェクトの一環として行ったものである。

これまでのL2読解研究では、L2学習者・読み手の文章読解過程について、ストラテジー使用を中心に解明が進められている。「思考発話法」（think-aloud method/ technique）と呼ばれる手法は読解過程の観察手法の1つで、読解中に考えていることを読み手に口頭で報告してもらうものである。発話を記録したプロトコル・データは、読み手の思考過程を反映していると考えられている

(Ericsson & Simon, 1980)。この手法を用いたL2読解研究として、英語を対象にしたBlock (1986, 1992)、フランス語を対象にしたDavis & Bistodeau (1993)、日本語を対象にしたHoriba (1990, 1996, 2000)、森 (2000)、館岡 (2005)、菊池 (2006) 等がある。例えば森 (2000) は、日本語母語話者 1 名と学習者 2 名の読解過程を詳細に観察し、中級学習者はボトムアップ処理が中心だが上級学習者はトップダウンの処理が多いこと、母語話者と上級学習者は感情的・社会的次元の関与という点で異なることを示した。

本調査でもこのthink-aloud法を用いて、学習者が読解中に遭遇する困難と、困難による読解処理への影響を検証する。

2. 質問

本調査で設定した質問は以下の2つである。

質問 1 中上級の日本語学習者は、読解中にどのような読みの困難を生じるか。

質問 2 困難によって読解処理はどのような影響を受けるか。

3. 本研究

3.1 調査協力者

日本語学習者 3 名の協力を得た。20代前半の大学留学生で滞日期間は約 3 か月、全員女性である。以下、仮名で記す。

- ・黄さん：台湾出身、中国語母語。日本語能力試験N1合格。社会工学専攻。
- ・陳さん：中国出身、中国語母語。日本語能力試験N1合格。比較文化専攻。
- ・ミンさん：ベトナム出身、ベトナム語母語。日本語能力試験N2合格。日本語専攻。

また、日本語母語話者として、20代前半の大学院生、男性 1 名に協力してもらった。

3.2 材料

新聞記事「アレロパシー」、661字、3段落構成 (表 1)。一般向けのエッセイだが科学的現象の説明を含む¹。

3.3 測定と手順

協力者1名ずつ個別に行った。調査時間は約1時間だった。収集したデータは、1) think-aloud法によるプロトコル、2) 理解確認のための文章全体の口頭再生、3) 未知語とストラテジー確認のためのフォローアップ・インタビュー、である。学習者3名とも習熟度が十分あると考え、日本語で実施した。think-aloudは、テキストを1文ずつ音読し、1文の終わりでその文について考えたこと、頭に思い浮かんだことを口に出すよう求めた。全て録音した。

表1. 読み材料（丸数字は文番号を示す）

①河川敷や空き地には、かつてはススキが広がっていたのに、一時期は黄色い花を咲かせるセイタカアワダチソウ（以下アワダチソウと略す）に占領されてしまった。②アワダチソウは、戦後に観賞用として北アメリカから移入されたものが野生化した「帰化植物」である。③帰化植物は、英語ではエイリアンとかインベーダーと呼ばれている。④まさに、インベーダーという名にふさわしい勢いであった。⑤どうなることかと心配したが、最近アワダチソウの勢いが以前ほどではなく、ススキが復活している場所もある。⑥さて、どうなっているのだろうか。

⑦アワダチソウが急速に広がった理由は、アレロパシー（他感作用）によるとされている。⑧アレロパシーとは、植物が放出する化学物質で同種や他種の植物の生育を抑制する現象のことである。⑨アワダチソウは根からポリアセチレンを分泌する。⑩数が少ない間は、まだ他の植物とも共存できるのだが、少しずつ仲間を増やしていき、やがてポリアセチレンの土壤中の濃度が数ppm(10万分の1)のレベルに達すると他の植物の成長を阻害するようになる。⑪その結果、アワダチソウがその場所に群落を形成してしまうのだ。

⑫しかし、アワダチソウにも弱点がある。⑬アワダチソウの密度が高くなり過ぎ、1平方メートルあたり100~200本になると、自分自身がまき散らしているポリアセチレンによって自家中毒を起こし、滅んでしまうからだ。⑭このようにして滅んだ跡地には、再びススキが復活するというわけである。⑮自らが作りだした毒によって繁栄し、そして過剰になり過ぎて滅ぶ。⑯何だか人間のことを思わせる話ではないか。

表2. ストラテジーの分類とプロトコル例

<p>【下位レベル】</p> <ol style="list-style-type: none">1. 語彙認識：語の意味を分析しようとする。例「かつて…はわからない。」2. 文の統語・意味分析：文や節の統語か意味特徴、あるいは双方を分析しようとする。 例「えーっと、アワダチソウは、根から一種の、えーと、化学物質を、えー、出して」 <p>【上位レベル】</p> <ol style="list-style-type: none">3. 推論：テキストの理解を深めるため、内容の推測を行ったり、新しい情報をすでにある情報に結びつけたり、一般体験知識を補いながら意味解釈を行ったりする。 例「あの、たぶん、アワダチソウは、あの他の植物を死なせる能力があるけど」4. 一般知識と連想：一般知識や自己の経験から、テキストの情報に関連して思い浮かんだことをコメントする。例「河川敷や空き地っていうのは、あの小岩の駅とか江戸川あたり…」5. 読み手の反応：テキストの内容について自己の考えや気持ちにもとづいたコメントや反応をする。例「私も知りたいです。」6. テキスト構造や文体についてのコメント：テキストの情報構造や文章スタイルについてコメントをする。例「たぶんなんか、子ども、子どもが読むストーリーかなと思ってる。」7. 自己の読み行動や理解度についてのコメント：自己の読み行動や内容の理解度についてコメントをする。例「え、わからない。どうしよう。」「辞書がいます。」8. 文章全体の意味：文章全体の意味を確認する。例「この文章はススキとアワダチソウについて、説明します。ススキは…」

3.4 分析

文字化したプロトコル・データはBlock（1986）を参考にストラテジーの種類の変わり目で分割した。ストラテジーの種類はHoriba（1996）を参考に2レベル、計8つに分類し（表2）、頻度を調べた。分析は2名の評定者で行い、不一致部分は協議により最終決定した。

4. 結果と考察

4.1 プロトコルの量的分析

テキスト全体でのストラテジーの使用頻度数は、黄さん・陳さんの2名がそれぞれ計33、32、それに対しミンさんは63と2倍近くあり、母語話者は中間の53だった。各協力者のストラテジー使用割合を表3に示す。学習者3名は下位レベルが5割以上で、「語彙認識」が約30%、「文の統語・意味分析」が30%から40%を占める。一方、母語話者は上位レベルが8割以上で、中でも「推論」が32%だった。L2読解では下位処理に注意が割かれるという先行研究の知見（Horiba, 1990, 1996, 等）と一致する。

表3. ストラテジーの使用割合 (%)

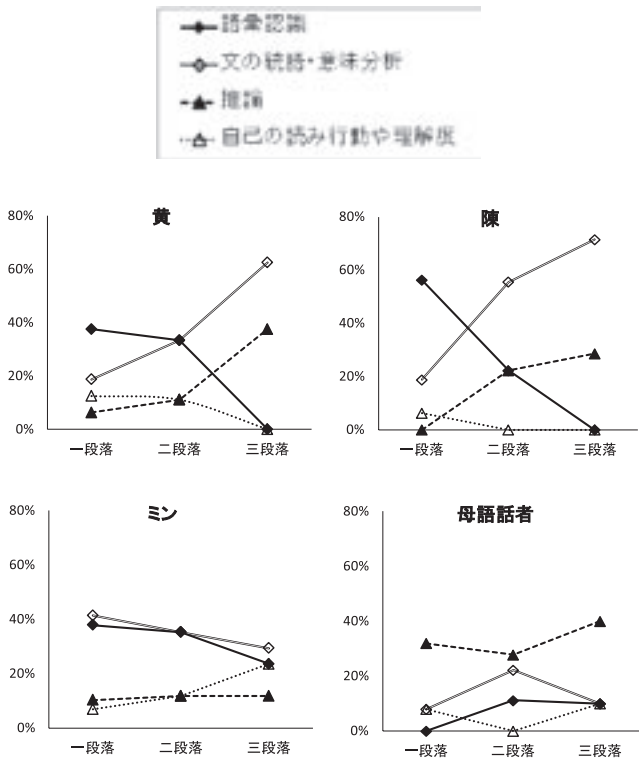
		学習者			母語話者
		黄	陳	ミン	
下位	語彙認識	27	34	33	6
	文の統語・意味分析	30	41	37	13
	下位小計	58	75	70	19
上位	推論	15	13	11	32
	一般知識と連想	3	0	0	25
	読み手の反応	9	9	2	15
	テキスト構造や文体	3	0	2	4
	自己の読み行動や理解度	9	3	13	6
	文章全体の意味	3	0	3	0
	上位小計	42	25	30	81
	計	100	100	100	100

次に、段落別のストラテジー使用割合をしてみる（表4）。8つのストラテジーのうち、いずれかの学習者、段落で20%以上使用のあった4種、「語彙認識」「文の統語・意味分析」「推論」「自己の読み行動や理解度についてのコメント」の推移をグラフ1に示す。

表4. 段落別のストラテジー使用割合（単位：％）

段落	黄			陳			ミン			母語話者		
	一	二	三	一	二	三	一	二	三	一	二	三
語彙認識	38	33	0	56	22	0	38	35	24	0	11	10
文の統語・意味分析	19	33	63	19	56	71	41	35	29	8	22	10
推論	6	11	38	0	22	29	10	12	12	32	28	40
一般知識と連想	6	0	0	0	0	0	0	0	0	32	22	10
読み手の反応	6	11	0	19	0	0	0	0	6	12	17	20
構造・文体	6	0	0	0	0	0	3	0	0	8	0	0
読み行動・理解度	13	11	0	6	0	0	7	12	24	8	0	10
文章全体の意味	6	0	0	0	0	0	0	6	6	0	0	0

グラフ1. 段落別のストラテジー使用



黄さん・陳さんの2名は段落が進むにつれて「語彙認識」が減り、「文の統語・意味分析」と「推論」が増加している。一方、ミンさんは2名ほど大きな変化はなく、「自己の読み行動や理解度についてのコメント」が多少増えたのみだった。母語話者は2段落目で下位処理がやや増加しているが、一貫して「推論」を多く用いている。

ここから、黄さん・陳さんの2名は、1段落目で大きかった語彙の問題が2段落目以降は減り、文単位、文と文のつながり（推論）という、より大きな単位での理解に取り組んでいったものと考えられる。一方、ミンさんと母語話者にはこの2名ほど大きな変化は見られない。

4.2 プロトコルの質的分析

各学習者の読解過程においてどのような困難があったのか、事例ごとに検討する。

1) 黄さんの事例（表5参照）

1文目では「河川敷」「かつて」「ススキ」「セイタカアワダチソウ」、2文目では「帰化（植物）」が未知語であった。このうち「河川敷」「かつて」の意味、「ススキ」が植物であることについては推測に成功しているが、「セイタカアワダチソウ」「帰化」は正しい理解に至っていない。インタビューの結果と合わせると、名詞修飾の「黄色い花を咲かせるセイタカアワダチソウ」、「戦後に観賞用として北アメリカから移入されたものが野生化した「帰化植物」」を十分理解できなかったことが原因の一つと見られる。

その後、5文目では意味が取れずに混乱を起し、文章冒頭から読み返して理解を修正している。後のインタビューでも《前を順番に読まないで、これだけで読むとわかりません》と答えており、1、2文目の困難のために5文目までの一貫した理解ができなかったことを示している。

第2段落以降は、未知語があったものの混乱なく読み進め、インタビューでも問題点はなかったと述べている。13文目のプロトコルでは10文目の内容と結びつけて解釈しているように、前の文脈と関連づけながら理解を進めていった。

表5. 黄さんのプロトコル（丸数字はテキストの文番号を示す）

- ①これ、たぶんなんか、子ども、子どもが読むストーリーかなと思ってる。……河川敷は…あの、……河川敷？ 河川敷は、なんか、川と、あの、ふしき？と合わせる空間だと思います。で、あの、かつて…はわからない。ススキは、植物かなーと思います。えー、あの、あの、セイタカウダ、何、読めないやつは、たぶん、んー、……わかりません。読めないですね。どうしよう。この一時期は、あー、たぶん春の景色、かなーと思います。
- ⑤ ん？…… [読み直す] ……え？ ……どうなることかと心配したが……どうなることかと心配したが。……え、ススキとアウダチソウは同じ植物だな？ どうなることか……心配したが……え？ あ、たぶん……なんか同じ植物だけど、なんか違う名前をつけたら、勢いがきく感じぜんぜん違う、でも、え？同じ植物かな、え、わからない。どうしよう。[テキストを冒頭から読み返す] あ、この、河川敷や空き地には、なんかももとはススキが、あの一、生きている場所だけど、あの、今はなんか、外、外国から来た植物、この、アウダ、アウダチソウという、植物が、なんか、場所を、占めてるというか。んー。あの、場所を、…なんか、ススキが、生きてる場所がなくなった。かなーと思います。
- ⑬あの…このアレロパシー、や、じゃない、ポリアセチレンという化学物質が、あの、他の植物を死なせることができるが、あの、アウダチソウ自身も、これによる、死んじゃうと思います。なん、あの数が、多くすぎると、この、ポリアセチレン、の濃度も、…多くなる。でも、多、多すぎるとアウダチソウ自身も死んじゃいます。

黄さんの読解について、ストラテジー使用の変化と合わせて考察すると、次のようにまとめられるだろう。第1段落では未知語の問題があり、統語分析も不十分で、文と文を関連づけた理解ができなかった。そのため一貫した理解表象が構築できず、途中で混乱を起こした。だが、第2段落以降は語彙の問題が減り、文レベルでの理解、推論を用いた文間の関連づけをしながら読み進めていた。

2) 陳さんの事例（表6参照）

第1段落は黄さんと同じく未知語が多かった。「黄色い花を咲かせる」の名

詞修飾句は正しく理解できず、アワダチソウを植物と理解していない。2種の植物については、この後5文目にかけて理解を修正していった。第2段落以降も黄さんと同様で、各文を前の文脈と結びつけて理解していた。13文目のプロトコルは10文目と関連づけて解釈している。だがインタビューでは、未知語の「まき散らしている」について《根や枝を伸ばして空き地に散らしている》ので密集しすぎた、と述べ、「ポリアセチレン」を修飾していることは理解していなかった。また、滅んだ原因が過密による成長阻害なのか、ポリアセチレンの中毒によるものなのか、あいまいになっていた。

陳さんの読解は、ほぼ黄さんと同様で、未知語や統語の理解不足の多い第1段落では文間の関連づけができなかった。第2段落以降は文脈を捉えながら読み進めているが、文構造を把握した上での正確な理解には至っていない。

表6. 陳さんのプロトコル

①あ、この文とっても難しい。外来語がたくさん入っているの、意味がわからないんですね。かわせんしき、かわせんしきは、えと一、川のあたりの、敷かな。「空き地」の意味は大丈夫。かつて、昔ですね。ススキは…ススキはわかんないんですね。花と、セイタカアワダ…えーっと、この、なんだっけ、わかんない、全然。…国の名前かな。たぶん軍隊とか。えと、

②そっか。花ですか、これ。どういう花か。〈以下略〉

⑤えと、ススキという花、ススキという単語の、えと意味が、なんか、今覚えてきた。えと、これは、1種類の花の、花です。ここは、なんか、アワダチソウの勢いが、えと以前よりなんか、悪く、なんか、えと、勢いがちょっと弱くなって、えと、ススキが、えと、成長できる、ようになるかな。

⑬えーと、そうか、アワダチソウの根から、えと、化学物質が出して、そして、他の生物が、植物が影響され、成長できなく、なって、また、えと、同じ種類の植物、えと、他の、えと、アワダチソウも、えー、そういうような化学物質に影響されます。

3) ミンさんの事例（表7参照）

第1段落はやはり未知語が多く困難を感じている。1文目で「アワダチソウ」を『花の名前かな』と推測しているが、2文目では『花かどうかわかりません』と述べており、黄さん・陳さんと同じく「黄色い花を咲かせるアワダチソウ」の名詞修飾句の理解には問題があった。

表7. ミンさんのプロトコル

①難しいです。この言葉。河川敷はどういう意味ですか。河川という言葉はわかりますけど、河川敷…なんだか。空き地…空き地はわかります。かつては…ススキが広がっていたのに、あー、私はススキもわかりません。一時期は黄色い花を咲かせるセイタカアワダチソウに占領されてしまった。この文は難しい言葉がたくさんありますので、意味は、よくわかりません。たぶんススキ、は花の名前かなと思います。そして、セイタカ…アワダチソウ………というのは、人の名前かな。だと思えます。あ、たぶん、これも花の名前、かなと思います。えー、あ、この文章の意味は、たぶん昔は、えーススキが広がったのに、一時期は、ススキは、セイタカアワダチソウ、アワダチソウ、に、占領されてしまった。っていう意味、だと思えます。

②この文章を読むと、アワダチソウは、植物ですけど、花かどうかわかりません。けど、アワダチソウはアメリカから移入されたものです。〈以下略〉

⑩群落って……えー、…群落っていうのは群れかな、と思えます。えー、あ、その結果、アワダチソウがその場所に群れを形成するっていう意味です。でもこの段落を、読み終わると、意味がだいたいわかりますけれども、最初の部分と、最後の部分が、なんか、つながらない〈＝つながらない〉かなと思います。あー、なぜかという、私は、なんか、意味がわかりませんが、阻害っていう言葉は悪い影響を与えるっていう意味なら、最初の部分と、最後の部分は、つながらない、一致しないと思えます。なぜかという、…〈中略〉…たぶんこの場合には、辞書がいます。

⑪ 〈中略〉この3つの段落を読んで、ほんとに、意味はよくわかりませんが、この文章はススキとアワダチソウについて、説明します。ススキは少しだけですけど、ススキは、かつてはススキは広がったのに、〈以下略〉

第2段落目以降の読解は、黄さん・陳さんと異なり、第1段落に引き続き未知語による困難が多く「他感作用」「抑制」「分泌」「阻害」などが理解できなかった。例えば、「抑制」は《強制》という語を連想して《それを助ける》意だと誤解していた。11文目では第2段落の意味をまとめて捉えようとしているが、語彙の問題のためにそれが困難で、自身でも辞書が必要だと認識している。

ミンさんは、テキスト全体を通して下位レベル、特に語彙の問題が多かった。「語彙」「文の統語・意味分析」のストラテジー使用に比べ、文間を関連づける「推論」の割合は全段落を通してかなり低い。だが、使用頻度数では段落別に3, 2, 2回使用しており、黄さんの1, 1, 3回と比べて少なくはない。11文目、16文目のプロトコルでも、段落や文章全体をまとめて捉えようと努力しており、下位レベルの困難がある中でも推論を用いて一貫性のある理解を構築しようとしていた。

5. 全体考察

5.1 どのような困難があったか

質問1、学習者はどのような困難を生じるか、について、3名共通の困難要因としてはまず未知語が挙げられる。3名分を合わせると26語あり、このうち理解に大きく影響しないであろう2語と、漢字やテキスト内の他の部分からの意味推測等により3名ともが何らかの解決をした5語を除くと、残りは19語となる(表8)。中国語話者2名はこのうち11語(表中3, 4行目)を理解しており、ベトナム語話者のミンさんにのみ未解決の問題として残った。これらはすべて漢字語であることから、母語背景による影響が考えられるが、日本語の習熟度の問題(中国語話者2名はN1、ミンさんはN2)もあるかもしれない。一方、3者に共通する残り8語は、4語が旧日本語能力試験レベルで級外のカタカナ語、残り4語が2級以上の和語である。今回の調査では、頻度の低いカタカナ語、和語が共通して困難となったと言えるだろう。

次に共通する問題は名詞修飾節による統語的複雑さである。文中のすべての名詞修飾節が困難となるわけではなく、表9の3か所が問題だった。「咲かせる」(①)「まき散らしている」(③)という語の理解不足、二重の名詞修飾である

こと(②)、節を含む文全体が長いこと(②、⑬)が、修飾節の理解を困難にしたと考えられる。これらは学習者3名に共通している。

表8. 学習者の未知語（未解決で残ったもの）

エイリアン	インベーダー	アレロパシー	ポリアセチレン
まさに	ふさわしい	勢い	まき散らす
観賞用	他感（作用）	抑制する	分泌する
滅ぶ	跡地	繁栄する	過剰
		土壌	阻害する
			自家（中毒）

表9. 名詞修飾節の困難

- ①黄色い花を咲かせるセイタカアワダチソウ
- ②戦後に観賞用として北アメリカから移入されたものが野生化した「帰化植物」
- ③自分自身がまき散らしているポリアセチレン

もう1つの共通する困難点として、5文目の「どうなることかと心配したが」、6文目の「どうなっているのだろうか」の解釈がある。5文目の筆者の「心配」については、3名ともプロトコルには現れなかった。インタビューでは《読解中にはぜんぜん考えなかった、その部分には注意しなかった（陳）》、《帰化植物は、えー、どうなるか、心配しました（ミン）》と答えている。また、6文目の「どうなっているのだろうか」は、3名とも《これから先どうなるのか》の意で誤って捉えていた。読解中は、《話題を引き出すもので、後ろになんかあると思った（陳）》、と述べている。この2つの部分は筆者の視点が表されているが、トピックである現象の説明ではないため、学習者が重要な情報と捉えず、あまり注意を割かなかったという可能性が考えられる。

5.2 困難による読解処理への影響

質問2、困難による読解処理への影響、について、学習者は困難にどのように対処し、ストラテジー使用や理解はどのような影響を受けるのか。まず、未知語については、意味推測を試みる場合と、理解できないまま読み進める場合があった。名詞修飾節は、理解できていないという認識が不足し、対処せずに

理解不足のまま読み進める場合が多かった。こうした下位レベルの問題が多い部分では、文と文を関係づける推論のストラテジー使用が少なく、そのため段落や文章の一貫した意味理解に困難を引き起こしていたと見られる。先行研究 (Horiba, 1990, 1996) で指摘されている通り、多くの認知資源が語や文の分析に割かれ、推論に向けることができなかつたのであろう。ただ、語や文の処理が困難な場合、推論を生成しない読み手 (陳) とそれでも一貫性を構築しようと努力する読み手 (ミン) がおり、個人差も見られる。こうした個人差が何に起因するのか、理解にどのように影響しているのか、は今後の検証が必要である。母語背景によって上位処理・下位処理の相互作用に違いがあるのかもしれないが、言語習熟度も考慮した上で、検証しなければならない。また、読み手が読み飛ばしがちな部分やコメントしなかつた部分については、文章全体の理解にどう影響したのか明らかにできなかつた。トピックについての背景知識、社会文化的な視点が関わっているように思われるが、この点も、今後さらに調査していくことが必要だろう。

6. 今後の課題

本調査では、発展途上のL2の読み手が遭遇する困難とその影響について、3名の事例を検証することで、学習者に共通する要素と個別に異なる要素を観察することができた。ただし、今回の3名は習熟度と母語背景の2点で異なるため、それぞれの要素がどのように影響しているかを明確に示すことはできなかつた。だが得られた結果から、語や文の困難点が多いテキストでは、下位レベルの困難を軽減し、上位レベルの処理に認知資源を向けられるように修正を施すことで、一貫性のある理解構築を促進できると考えられる。どのような修正を加えると困難を軽減できるのか、どの程度の軽減が適切なのか。理解の促進と同時に言語的な学習発達をも促す効果的な方法はどのようなものか。こうした問題の解明を目指して、テキスト修正とそれによる読解プロセス、理解への影響について研究を進めていきたい。

謝辞 指導教官の堀場裕紀江先生、データ分析の協力者ボイクマン総子氏と、調査協力者の筑波大学留学生センターの学生のみなさん、原稿にコメントをくださった西菜穂子氏に感謝いたします。

注

- 1 調査では2編の記事を使用したが、そのうち1編についてのみ報告する。

参考文献

- 川村よし子（2011）「文章の難易度判定システム構築のための基礎調査」『ヨーロッパ日本語教育』15, 171-178.
- 菊池民子（2006）「よい読み手の読解過程に見られる特徴—ストラテジー連鎖の視点から—」『言語文化と日本語教育』31, 1-10.
- 柴崎秀子・玉岡賀津雄（2010）「国語科教科書を基にした小・中学校の文章難易度学年判定式の構築」『日本教育工学会論文誌』33（4）, pp.449-458.
- 館岡洋子（2005）『ひとりで読むことからピア・リーディングへ—日本語学習者の読解過程と対話的協働学習』東海大学出版会
- 森雅子（2000）「母国語および外国語としての日本語テキストの読解—Think-aloud法による3つのケース・スタディー—」『世界の日本語教育』10, 57-72.
- Block, E. (1986). The comprehension strategies of second language readers. *TESOL Quarterly*, 20, 463-494.
- Block, E. (1992). See how they read: Comprehension monitoring of L1 and L2 readers. *TESOL Quarterly*, 26, 319-343.
- Davis, J. N., & Bistodeau, L. (1993). How do L1 and L2 reading differ? Evidence from think aloud protocols. *The Modern Language Journal*, 77, 459-471.
- Ericsson, K. A. and Simon, H.A. (1980). Verbal reports as data. *Psychological Review*, 87, 215-251.
- Horiba, Y. (1990). Narrative comprehension processes: A study of native and non-native readers of Japanese. *The Modern Language Journal*, 74, 188-202.
- Horiba, Y. (1996). Comprehension processes in L2 reading: Language competence, textual coherence, and inferences. *Studies in Second Language Acquisition*, 18, 433-473.

- Horiba, Y. (2000). Reader control in reading: Effects of language competence, text type, and task. *Discourse Processes*, 29, 223-267.
- O'donnell, M. (2009). Finding middle ground in second language reading: Pedagogic modifications that increase comprehensibility and vocabulary acquisition while preserving authentic text features. *The Modern Language Journal*, 93, 512-533.
- Oh, S. (2001). Two types of input modification and EFL reading comprehension. *TESOL Quarterly*, 35, 69-96.
- Yano, Y., Long, M. H., & Ross, S. (1994). The effects of simplified and elaborated texts on foreign language reading comprehension. *Language Learning*, 44, 189-219.
- Young, D. J. (1999). Linguistic simplification of SL reading material: Effective instructional practice? *The Modern Language Journal*, 83, 350-366.